

## 国語科（言語文化）学習指導案

岡山県立岡山一宮高等学校 普通科 1年1組  
令和5年11月9日（木）第5校時 HR教室 指導者 北村 庸江

- 1 単元名 『伊勢物語』における「みやび」とは何かを考える。  
教材『伊勢物語』初段・第6段・23段・24段
- 2 単元の目標
  - (1) 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解できる。  
〔知識及び技能〕 (2) イ
  - (2) 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つことができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 B読むこと (1) オ
  - (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め言葉を通して他者や社会に関わろうとする。  
「学びに向かう力・人間性」
- 3 本単元における言語活動  
作品の内容や形式について、批評したり討論したりする活動。

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ( (2) イ )	① 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 ( B読むこと (1) オ )	① 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、粘り強く我が国の言語文化について自分の考えをもち、今までの学習を生かして、「みやび」について考え、意見を交換したり、発展的な課題に取り組もうとしている。

### 5 指導上の立場

#### 単元観

本単元で取り上げる指導事項「思考力、判断力、表現力等」B読むこと(1)オは、「作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。」となっている。

『伊勢物語』は長年にわたり書き整えられながら、「みやび」を基調に調和を保っている物語である。初段において示される「みやび」は各段において内容が明らかに示されているわけではなく、登場人物の言動によって語られるのみである。従って「みやび」の意味は具体的な言動の中に探られねばならない。この読みによって一つの人間的な真実としての「男」と「女」の姿を見つめ、『伊勢物語』の古典としての価値に気づかせたいと考える。生徒にとって恋愛は興味のある事柄と思われるため古文に興味関心のない生徒にも取り組みやすい作品で、班活動による言語活動を組織し「みやび」についての考えを伝え合い、個人では到達できなかったであろう「みやび」への理解を深めたい。

#### 生徒観

普通科生徒として知的好奇心があり、自ら考えようとする積極性を持った生徒が多く、班活動では活発に意見交換ができる。ただ、古文を学んで日が浅く、本文理解が不十分な生徒や、古文に対する興味関心があまりない生徒もいるため、班内でまずは作品の内容確認に時間を要することも考えられる。生徒は口語訳作りを通して歌物語の形に慣れ、主人公の心情理解はほぼできると思われるが、「みやび」についての考察は個々人の語彙力の不足もあり、個人では限界があるのではないかと考え、班学習を行う。また、言語文化についての自分の考えを持つには至っていない生徒が班で教え合うことで古文への苦手意識を克服し、『伊勢物語』という恋愛を主題とする教材を用いることで、興味関心を持って古文に向き合う場となることを期待したい。

#### 指導観

今回は協働的な学びを得るためジグソー法を用いて複数の作品を読み比べ、各段に描かれた『伊勢物語』における「みやび」とは具体的にどのようなものなのかを登場人物の言動を通して考えさせた

い。考えを全体で共有するためにスプレッドシートを用いる。学習者が興味を持てる題材を使うことで古典への興味関心を高め、古典を自分とは無関係のものに見なすのではなく、内面化し、主体的に解釈し、批評し、価値を発見する態度を培い、古典との間に関係性が築かれ、今後も古典を読みたいという気持ちが芽生えることを期待したい。古典を読むことでものの見方、感じ方、考え方が深まることも実感させたい。活動にうまく入れない生徒には個別にアドバイスをして支援する。

## 6 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
一	1	・『伊勢物語』「初冠」（初段）を読む。場面や登場人物の状況・心情を読み取る。 ・「みやび」の理解を通して『伊勢物語』読み味わうことを理解する。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ①	記述の点検 ワークシート 記述の点検 ワークシート
	2 ～ 3	・A『伊勢物語』「芥川」（第6段）を読む。場面・登場人物の状況・心情を読み取る。 ・B『伊勢物語』「筒井筒」（第23段）を読む。場面・登場人物の状況・心情を読み取る。 ・C『伊勢物語』「梓弓」（第24段）を読む。場面・登場人物の状況・心情を読み取る。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ①	記述の確認 ワークシート 記述の確認 ワークシート
	1	・『伊勢物語』三つの段を読み比べ、各段に現れた「みやび」を読み取り、意味づける。 ・三作品における「みやび」についてどのようなものかを考え、ワークシートに個人の解を記入する。 ・次に本文の記述をもとに班で話し合い、班の解を記入する。 ・次回ジグソー法で班活動するのでA・B・C三作品のどれを担当するか決めておく。	[思考・判断・表現] ①  [主体的に学習に取り組む態度] ①	記述の分析 ワークシート  行動の確認 観察
二	2 本時	・ジグソー法を用い、専門家集団に分かれて話し合い、班に帰って報告し、再び考え、班の納得解を作り、クロムブックのスプレッドシートに入力する。 ・各班の意見を読み、クラスで意見交換をする。 ・クロストークを踏まえ、個人で納得解を作る。 ・振り返りをする。	[主体的に学習に取り組む態度] ①  [思考・判断・表現] ①	行動の確認 観察  記述の分析 ワークシート
三	6	・個人で以下の活動のいずれかを選んで取り組む。感想を書く・物語の続きの創作・物語の口語による改作・登場人物になったと仮定して日記を書く・物語の場面を絵に描く、など。	[主体的に学習に取り組む態度] ①	記述の確認 ワークシート

## 7 本時案（第二次 第2時）

### (1) 本時の目標

○作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つことができる。

[思考・判断・表現] B読むこと(1)オ

○言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

[学びに向かう力・人間性]



